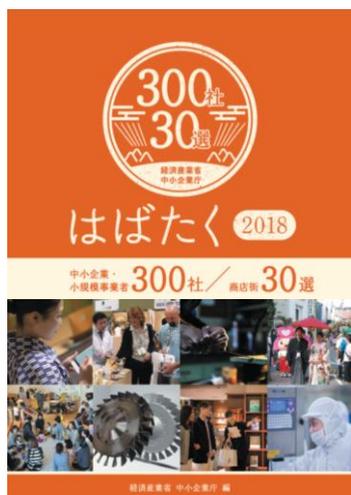


創業から113年の株式会社マックスが、 経済産業省 中小企業庁「はばたく中小企業・小規模事業者300社 2018」 に選出されました。

スキンケア・ボディケア製品の化粧品製造販売企業である株式会社マックス(本社所在地:大阪府、代表取締役社長:大野 範子)は、経済産業省 中小企業庁が選定する「はばたく中小企業・小規模事業者300社 2018」に選出され、2018年3月26日(月) 経済産業省本館にて、世耕弘成経済産業大臣より表彰されました。

選出は、「ものづくりにおける担い手確保」の分野で優れた取組を行っているということがポイントとなり、事例集の中では、「素肌の悩みや肌トラブルを解決するスキンケア商品の開発と、女性が働きやすい環境づくりに取り組む老舗化粧品メーカー」として紹介記事を掲載していただきました。



右:代表取締役 大野範子
左:取締役 小池修司

「はばたく中小企業・小規模事業者300社」の概要

中小企業庁が、ITサービス導入や経営資源の有効活用等による生産性向上、積極的な海外展開やインバウンド需要の取込み、多様な人材活用や円滑な事業承継など、様々な分野で活躍している中小企業・小規模事業者を300社選定して、事例紹介するとともに表彰する活動。

中小企業庁HP／はばたく中小企業・小規模事業者300社

<http://www.chusho.meti.go.jp/keiei/sapoin/2018/180326monozukuri.htm>

<株式会社マックスについて>

本社:〒581-0084 大阪府八尾市植松町2丁目9番29号

代表者:代表取締役社長 大野 範子

創業:1905年(明治38年)3月

設立:昭和22年10月1日

資本金:2,500万円

Tel:072-994-5050(代)

Fax:072-994-4531(代)

URL: <http://soapmax.co.jp/>

事業内容:一般化粧石けん・特殊高級化粧石けん・贈答用化粧石けん・薬用石けん(医薬部外品)・液体石けん(ポディーソープ)・キャラクター化粧石けん・業務用化粧石けん・入浴剤(医薬部外品)・液体洗淨料(シャンプー・リンス)等の製造・企画・販売。

<事例紹介 掲載情報>

http://www.chusho.meti.go.jp/keiei/sapoin/monozukuri300sha/2018/ninai032_max.pdf

株式会社マックス

大阪府八尾市



生産性向上 需要獲得 担い手確保
ものづくり サービス

ポイント 素肌の悩みや肌トラブルを解決するスキンケア商品の開発と、女性が働きやすい環境づくりに取り組む老舗化粧品メーカー

- 生産ラインの9割を機械化・自動化し、力仕事をほとんど無くすことで、女性が活躍している
- 事業承継後、自らの体験をもとに”問題を取り除くことで悩みを解決する”商品開発を展開している
- 産地と共同で柿渋石鹸を開発するなど、地域に根ざした商品作りで持続可能な地域づくりにも貢献

企業基本情報

所在地 大阪府八尾市植松町 2-9-29
電話/FAX 072-994-5050/072-994-4531
U R L <http://www.soapmax.co.jp>
代表者 代表取締役社長 大野 範子
設立 1905年
資本金 2,500万円
従業員数 90人



生産性向上

需要獲得

担い手確保

会社概要

創業113年を誇る老舗化粧品メーカーで、古くは小学校の手洗い用のレモン石鹸を製造し、その後、液体洗浄剤、入浴剤などのスキンケア、ボディケア製品の製造へと幅を広げる。最近はお風呂場から顧客の「悩みを解決する」というコンセプトのもと、「臭い」の悩みを解決する柿渋石鹸や、「肌トラブル」の悩みを解決する敏感肌用石鹸、基礎化粧品などの新商品開発に積極的に取り組んでいる。地域に根ざした商品作りに定評がある。



会社外観

革新的な製品開発や創造的なサービスの提供に関する取組の内容

▶▶▶ ラインの機械化・自動化により、多様な人材が活躍

主力工場の製造ラインを9割機械化・自動化することで、従業員を力仕事や危険な作業から開放。あわせて成分の配合や分析についてもシステム化により専門的な知識・経験がなくても作業できるようにし、石鹸（固体）、ボディソープ（液体）、入浴剤（粉体）の製造ラインで従業員を共有できるようにした。結果、子育て中の女性が働きやすい午前中に集中して稼働するなど、従業員の希望出勤日や時間に合わせた対応により、女性が活躍できる環境を整えている。



製造ラインで活躍する女性従業員

▶▶▶ ”問題を取り除くことで悩みを解決する”商品作りを展開

事業承継後、これまで主軸であったギフト石鹸やOEM以外の新事業を模索する中で、自らの闘病克服の経験から、肌が弱い人でも楽しいバスタイムを過ごせるボディケア商品を開発したいとの思いが強まり、肌のトラブルを解決する新発想の”石鹸あわ”を開発。医薬部外品の敏感肌用石鹸やボディソープの商品化に至った。「加える」ことでより良くすることよりも、「問題を解決する」ことで、普段の生活に戻ることの喜びを取り戻していただくことに軸足を置いて、商品開発を行っている。



自身の闘病経験から、新技術の石鹸あわが誕生（※特許出願中）

▶▶▶ 産地と共同で柿渋石鹸を開発するなど地域づくりにも貢献

臭いの悩みを解決する柿渋石鹸の原材料となる柿は、農業や化学肥料を減らした栽培を行うエコファーマー指定を受けた松江市・東出雲の農家が栽培したブランド柿（西条柿）にこだわっている。生育段階で間引きする柿の実から柿渋エキスを抽出し、品質ならびにトレーサビリティを明確にした持続可能な地域づくりに資する製品づくりを行っている。主力工場がある奈良地域に根ざした商品づくりによる地域貢献に向けても動き始めたところ。



松江市市長、柿生産組合との共同記者発表